

令和5年度 校内研究

研究主題

児童の学ぶ意欲を育む

見方・考え方を意識した授業展開の工夫



東京都北区立としま若葉小学校

〒114-0003 東京都北区豊島5-3-30

TEL 03(3912)1458 FAX 03(3912)1632

E-mail toshiwaka-syo@city.kita.lg.jp

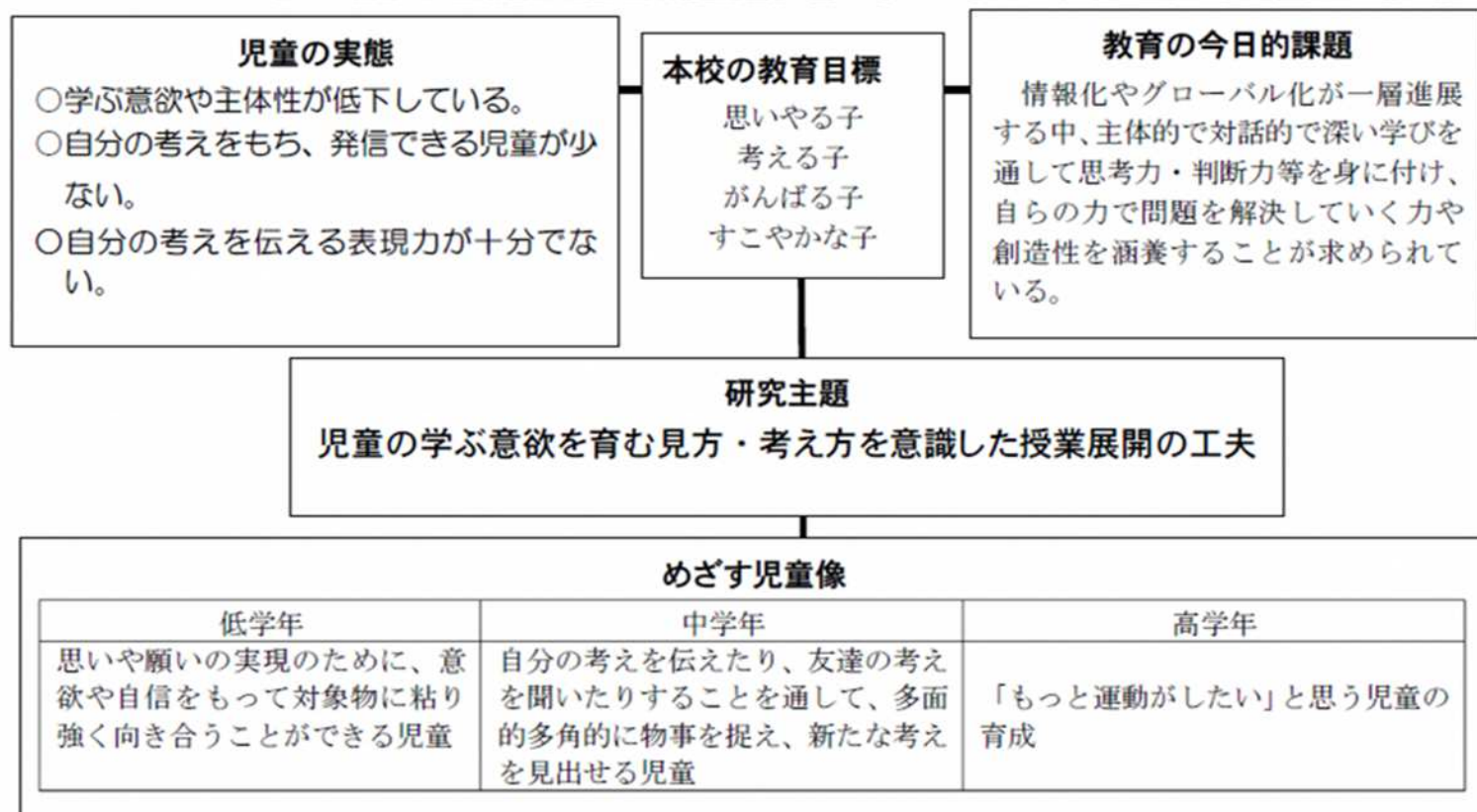
としま若葉小

検索



東京都北区立
としま若葉小学校

研究の構想



研究主題設定の理由

令和4年度は、「ICTを活用するための基盤」となるタイピングスキルや思考ツールの活用について重点を置いて研究を行い、スクールタクトやロイロノートなどを使用することで、児童の交流や思考を深めるうえで有効だという成果を得られたので、今後も多様な教科で取り入れていく。ICT機器を活用し、主体的・対話的な学びを深めることができたが、一方で学ぶ意欲を高め、基礎基本の定着を図る授業づくりが課題として残った。そこで、今年度は「児童の学ぶ意欲を育む見方・考え方を意識した授業展開の工夫」を研究主題に据えて、教科・領域を指定せず、低・中・高の3分科会で児童の「できた、分かった」を積み重ね、自己肯定感や学ぶ意欲を高める授業展開の工夫を行っていく。

研究主題に迫るための手立て

- (1) 自分で考え、自分からすすんで取り組む工夫
- (2) 自分の考えを広げたり、深めたりする工夫

授業の実践

生活科「作って ためして」（第2学年）

○単元の目標

動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びを工夫したりすることができ、身近なものを使ってできる遊びの面白さ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ちよく遊べることに気付き、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

○授業の視点

- ・身近なものを揃えて環境を整えたことで、おもちゃづくりに対する意欲を引き出せたか。
- ・素材遊びで気付いたことを共有する場を設けたことで、おもちゃづくりに対する意欲を引き出せたか。

社会科「火事からくらしを守る」（第3学年）

○単元の目標

事故や事件から地域の人々の安全を守る活動に従事する人々の工夫や努力を知るとともに、関係諸機関と緊急事態に備えた連絡・活動の仕組みについて理解し、社会の一員として協力できることに取り組もうとする意欲や態度を養う。

○授業の視点

- ・児童が「火災」についての恐ろしさを抱き、自分事として捉え意欲的に取り組むことができているか。
- ・少人数での話し合い活動を通して、年々火災の件数が減っている傾向にある背景には消防士や警察など様々な人の働きがあることを理解することができているか。
- ・児童が主体となって学習問題を設定することができているか。

体育科「E ボール運動 ア ゴール型 バスケットボール」（第5学年）

○単元の目標

- ・簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを持たないときの動きによって、攻防することができる。
- ・運動にすすんで取り組み、ルールを守り、助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができる。

○授業の視点

- ・試合の前後に話し合いの場を設けておくことで、スペースを見付けて動くことができていたか。
- ・シュートを打つ練習を行い、どの子も積極的にシュートを打とうとしていたか。

研究の成果と課題

〈自分で考え、自分からすすんで取り組む工夫について〉

【成果】

- ①活動の場を整えることで、児童が自由な発想を形にすることができ、他者に伝えたいという思いも高めることができた。また、単元末まで意欲的に活動した。
- ②写真やイラスト、動画などをＩＣＴ機器を使用して提示することで、「調べたい」「発表した」という意欲が高まった。
- ③ゲーム性のあるウォーミングアップを取り入れることで、学習への意欲が高まった。

【課題】

- ①自分の考えをもてるように、活動時間を十分にとる必要がある。
- ②学習問題を考えられるように、交流の時間を十分にとる必要がある。
- ③試合に生かせるように、基礎的な動きが入ったウォーミングアップを取り入れる必要がある。

〈自分の考えを広げたり、深めたりする工夫について〉

【成果】

- ①途中経過を見合うことで、改善点に気付くことができ、よりいいものを作ることができた。
- ②少人数グループで伝え合うことで自分の考えに自信をもつことができた。
- ③チームの中で、自分がどのような動きをするべきか周りからのアドバイスを受け、実践しようとしていた。

【課題】

- ①考える時間と交流する時間を明確に設定することで、交流する時間を十分に確保することが課題である。
- ②「個人で操作する時間」「３人組で交流する時間」「全体で話し合う時間」の活動の目的を明確にする必要がある。
- ③ワークシートを基に説明する児童が少なかったため、話型を活用する必要があった。

研究に携わった教職員（◎研究推進委員長 ○研究推進委員）

研究の詳しい内容について

本校の研究の詳しい内容（研究の概要 学習指導案 各種資料等）につきましては、
本校ホームページよりご覧いただけます。

としま若葉小

検索

